

町内で火事発生！ その時どう動く！

被害を最小限に抑える ～大規模火災想定訓練～

11月12日（日）、毎年恒例の非常呼集訓練の代わりに、今年は自主防災組織、阿蘇広域消防本部や高森警察署などにも協力してもらい大規模火災想定訓練が行われました。

高森地区と津留地区の2箇所を対象に行われたこの訓練では、放水体制の確認やけが人の誘導や搬送などを実施しました。

高森地区では、横町にある建物から火の手ががり、横町自主防災が初期消火を実施するところから始まります。火災発生から2～3分以内に消火することで被害を最小限

に抑えるからです。しかし、火は消えず勢力は増すばかり。そこで、119番通報をしました。



初期消火を実施しましたが、困難です。逃げ遅れ・けが人は不明です。

その後、高森町消防団が続々到着。現場指揮本部も設置されました。防火水槽・消火栓や別所池などの水利を使い、中継送水しました。



消防団長の指示のもと、消防署・警察と協議して出動分団や役場と連携を図ります。しかし、なかなか延焼に歯止めが利かず阿蘇広域消防本部は梯子車を出动させました。高所からの大容量放水により、ようやく鎮火しました。



同時進行で、避難所を開設、避難者の名簿を作成し現場指揮本部に報告。さらに食生活改善推進員協議会による避難者への食事の提供準備が開始されました。また、応急救護所では、搬送されてきた複数名の負傷者に保健師がトリアージを行いました。



トリアージとは、医療資源を効率的に分配し、より多くの人命を救うことを目的に、負傷者の重症度合いを選別することです。



訓練の3日前の、11月9日（木）は、高森幼稚園幼年消防隊が秋季火災予防運動の一環で町を練り歩き「火の用心」と元気な声で町民に防火を呼びかけました。



町で初めての大掛かりな訓練。草村町長の講評では、「課題も出ただろうが、放水は文句なし。普段からの管理が良かったのではないかと思う。今日を機に更なる防災意識を高めよう」と述べました。また、渡邊団長は「今日の訓練は失敗しても、有事の際は失敗は許されない。課題を各分団で共通認識としてもってほしい」と訓示しました。総勢400人ほど参加した今回の訓練は初めてということもあって、役割がわからないと戸惑いの声もありましたが、役割のほか、防災資機材の使い方や災害時に取るべき行動など多くの学びがあったことでしょう。子どもから大人まで地域一体で更なる防災意識を高めていきたいと思います。